

# SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



## 目次

- ☆新年度の挨拶・・・・・・・・・・ 2
- ☆虫めがね・・・・・・・・・・ 3
- ☆虫めがね、クラブ活動報告・・・・ 4
- ☆活動報告、クイズ・・・・・・・・ 5
- ☆外に出ようのお知らせ・・・・・・ 6
- ☆バリアフリーよもやま話（岡本連載）  
・・・・・・・・ 7
- ☆Dormitory Life（小野塚連載）  
・・・・・・・・ 8
- ☆僕の生き立ち（太田連載）、寄付のお礼、  
スケジュール・・・・ 9
- ☆賛助会のお知らせ・・・・・・・・ 10
- ☆夕会便り、クイズ解答・・・・・・ 11
- ☆編集後記・・・・・・・・・・ 12



## 巻頭文



プロ野球の開幕戦が始まりました。また長い長い戦いが始まります。長い期間での戦いだからしょうがないとは言え、なるべく故障者が出ないで欲しいです。皆さんはどのチームを応援しますか。僕は判官鼻肩なので特にこれと決まってはいませんが、どちらかというところセ・リーグのチームです。大体は横浜でしょうかね。

田村 亮彦

## 新年度のご挨拶

### 新年度を迎えて

この会報の読者の皆様には、日頃、風の子会にいろいろお力添えをいただき、ありがとうございます。

本来1月号で新年のご挨拶をすべきだったのですが、諸事情により遅れてしまい

失礼いたしました。改めて、新年度のご挨拶を申し上げます。

会長という立場を頂いて何年になるのでしょうか。運営委員会や職員体制の充実のおかげでほとんど名前だけの会長でいることができます。しかし、和栗さんのような同年代の仲間の健在も確認したいし、特養などでは容易に触れられない、若い後輩たちの雰囲気にも浸りたいので、できるだけ理事会、運営委員会、総務部会などには参加するようにしてきました。

新年度に当たり、風の子会の現状を改めて見ますと、活動は順調であるとはいえ、行政からの補助金の介護保険との絡みや、送迎体制の拡充の必要性、メンバーの拡大、ボランティア確保、新しい活動の模索など、いくつかの課題があります。これらは一つひとつ時間をかけて、知恵を絞りながら、解決していかなければなりません。日本全体を見渡してもこの分野の団体では多かれ少なかれ、同じような課題を抱えています。このような他団体と共通の問題として連携を取っていくことも今後必要かと思えます。

風の子会には、充実したパソコン環境、特徴ある和紙やビーズ製品の制作などの強みがあります。新しい活動という面ではこれをアートや文化活動で活用し、他の団体との交流も進めることができると思います。また、会報やボランティアハンドブックの編集で培った出版のノウハウも生かして、新しい活動につなげていくこともできるでしょう。

新年度を迎え、職員、メンバー一同、新たな気持ちで頑張っまいりますので、これからもよろしく願いいたします。

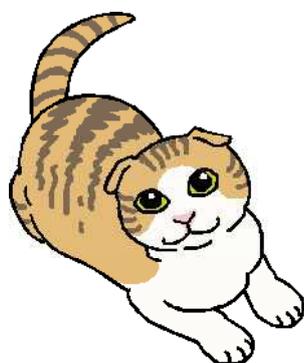
会長 花田政國



# 虫めがね ～飼ってみたいペット～



僕のように動物を飼うことの初心者が最初に飼うのに適当なペットは、やはり犬か猫だと思います。どちらかというとな猫よりも犬のほうが人間になつてくれそうなので、僕としては、やはり猫よりも犬のほうが好きです。実は、妹夫婦の家庭で犬を2匹飼っていたことがあるので、犬に対していくらか愛着があります。名前は、「ダスティー」と「パセリ」でした。その2匹が死んだとき葬式をしたくらい、大変なかわいがりようでした。妹に言わせれば、2匹とも、自分がまわりの人間と同種の「人間」だと思っていたとのことで、それくらい家庭にとけ込んでいたようです。



僕にもよくなつてくれて、それなりのコミュニケーションがとれていたような感じでした。そういうことはやはり、犬ならではだと思ひます。ですが、実際には、世話をすることが大変なので、僕が犬を飼うことは今後ありえないと思ひます。

ストーン・ゴッド



私が買つてみたいペットはラブラドル・レトリバーかセントバーナードです。ラブラドルは盲導犬として使われているのでとても賢く忠実だし、セントバーナードは温和で従順、しかもおとなしいのでとても癒されると思ひます。この二つの犬種を好きになった理由として前者は、TVドラマによく登場するし後者は映画「ベートーベン」シリーズの主人公にもなりましたしアニメの「アルプスの少女ハイジ」に登場しました。この二つを観たとき本当におとなしく頭もよく優しい犬だと感じたからです。

三木 直人



# 虫めかね ～飼ってみたいペット～



犬か猫かどっちを飼うかと聞かれたら、私は猫と答えるだろう。飼い猫が死んで以来、旦那には何回もまた猫を飼おうよと云われたが、私はもう十年若かったらねと云いながら誤魔化してきた。私だって動物は恐竜と爬虫類と類人猿と、昆虫類を除いてはほとんど、みんな好きなのだから、旦那と同じように本当は猫を飼いたいのだが、それが出来ないから仕方なく、TVのCMに出演する猫をかわいがっている。良い子ねとか、お行儀が悪いでしょうと云いながらー。



太田 圭子



## クラブ活動報告



2月22日にクラブ活動が行われました。

運動部はプールで浮き輪のような物を使い泳ぎ、休憩時間中に温かいお湯が出るところで休んだそうです。

聡さんはジャグジーが気持ち良かったそうです。

三木さんはプールで運動して体が楽になったそうです。昔できていたクロールが出来なくなってきてショックを受けていたそうです。



水温を聞いたら、ぬるま湯で冷た過ぎず熱過ぎず丁度いい感じのようでした。私も機会があれば行きたいです。

料理部はおろし金で人参をすった後レタスを細く切って加えタコスを作ったそうです。



読書部は旦那（太田稔さん）が電子書籍で本を買って読みたいとの事だったので、そのサイトを探したりパソコンの設定をしていたら時間が経ってしまったようです。PCの調子が悪く太田さんが苛立っていたそうです。

編み物部は編み物でマフラーを作っていて最終的に商品化を目指しているそうです。僕も今度プライベートな時間を使い編み物に真剣に取り組もうと思いました。

出版部は作業が行き詰まっているので、それぞれの仕事をしていたそうです。

塚田愛基



# 活動報告

企画の部屋の中はしーんと静まりかえり、水を打ったように静かです。チョット暗くて寂しい感じもしますが、私はこれで良いのではないかと考えています。今日もメンバーはパソコンに向かって、黙々と自分に与えられた仕事を頑張っています。毎月違う分野ですから大変よね。

太田 圭子

## Ryo's エニグマルーム

		×			
		×			
×					×
		○			
	×				×
○				○	

			×		×		
	×						
				×	×		×
		○				○	
×				×			
			○			×	×
	×						
		○				○	

タテヨコ同じ数の○と×が入るように○と×をインプットしていくパズルです。○と×は二つまで連続してインプットできませんが三つ繋がってはけません。又、同じ○×並びのパターンが他の列と重複することはありません。

まるばつロジック

## 2014年『障がい者は外に出よう』のお知らせ

今年の「障がい者は外に出よう」は、京浜急行沿線（品川～三崎口まで）を予定しています。「障がい者は外に出よう」とは、今まであまり家から外出した事のない障がい者が外出をして色々な風景を見たり、自分自身で気に入った物を買ったり食べたり、人との交流をしてもらう行事です。全体集会では、各班にわかれ班員同士でその日一日の行動を決めてもらいます。ひと班約10名（介助の必要な障がい者1名に対し、3名のボランティアという組み合わせを考えておりますのでご安心下さい。）で行動し、目的地まで行き散策します。指定された時間に集合場所（今回は品川駅）へ集まり、そこで反省会をして、散会となります。当日までの予定を下記に書いておきますのでご参照ください。

4月30日：参加してくれる障がい者の締め切り

5月10日：リーダー会議及び一般ボランティアの締め切り

5月17日：全体集会（顔合わせ兼打ち合わせ）

5月25日：外に出よう当日

6月 1日：当日が雨天の場合の予備日

お問い合わせは風の子会内「障がい者は外に出よう」事務局：担当 山名まで。

三木 直人



2013年 山手線沿線より

## バリアフリーよもやま話 第28回 「自分の声で」

岡本 明

がんなどの手術で咽頭を取ってしまった人は声が出せなくなり、声で自分の意思を伝えられないつらさを強く感じています。このような人たちが自分で話せるようになるためにはいくつかの方法があります。「食道発声法」は食道に空気を吸い込んでゲップを出し、それを声にするものです。「電気咽頭」は振動器をのどに当てて声帯の代わりにする方法です。「咽頭形成法」手術もあります。

まったく異なる方法として、声をコンピュータで合成する方法があります。声はご存知のように空気の振動で、その波形が変わることによっていろいろな声になります。コンピュータでこの波形を真似してやれば声になるわけです。ロボットのあの声です。最近では技術も進み、男性、女性の声も使い分けられ、発音、アクセントもかなり自然になりました。キーボードから文字を入れれば機械がしゃべってくれるので、会話もできます。宇宙物理学者のホーキング博士も使っていますし、トーキングエイドなどの商品もあります。

さて、声には言葉の意味を伝えることと同時に「その人であること（本人性）」を伝える役割があります。先に書いたどの方法も、自分の元の声ではありませんから、本人性が伝わりにくく、その人らしい会話、話し方を元のように取り戻せません。

大阪芸術大学の牧 泉教授は、数年前にのどの手術をし、声が出せなくなりました。授業はしゃべれないとできません。音声合成器で話は何とかできるようになっても大



学の講義は無理だろう、と半分あきらめていた牧教授が出会ったのが、自分の声を再生できるという製品でした。ある大手電機メーカーが最新の技術を使って開発した「自分の声ソフトウェア」（現在はボイスターという名で製品化）で、牧教授はさっそく第一号のユーザーになりました。これはキーボードから入力した文章を、個人の特性や感情表現、自然な発話、声質、抑揚や語尾のくせなど、あの声、あの口調、その人らしさで発声します。

あの声、あの口調は、元の声から取り出したその人の声の特徴を使って作ります。まだ手術前で声が出る場合は、いくつかの文章をしゃべってもらって録音します。もし既に声が出なくなっていたら、それまでに録音してあったものを探して、そこからいろいろな音声の断片を引っ張り出します。そこからが難しいところです。人間は一人ひとり違いますし、なにがその人らしさなのかを知るには、人間のことをよく理解しなければなりません。そこで、コンピュータの技術だけではなく、心理学、音声学、言語学などの分野の知識も使って分析していきます。その結果を使って音声を合成すると、その人らしい話し方の声が出てくるというわけです。

牧教授は、まず「自分の声ソフト」で日常会話をくりかえして自信をつけ、つぎに講義などの深みのある話をするを試しながら不安を解消していったそうです。教壇から降りて学生と自由な会話ができるかが心配だったようですが、これも無線キーボードとタブレット PC で解決でき、現在は完全に大学に復帰されています。

このように、いろいろな分野が協力して人間を大切にする新しい技術を作ろうという研究が進んでいます。こういう技術がもっともっと進歩するといいですね。

## わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

### 第61話 寮を出る

大学生活6年目を迎えるにあたって、とりあえず寮を出て一人で生活をしてみようと思ってみた。母を説得するのは骨が折れそうなことは目に見えていたので、外堀を埋めるべくまずは父に話を振ってみる。当時はまだ現役サラリーマンで家庭のことは二の次だった父は「やってみろ」とあっさり快諾してくれた。父の真意がどこにあったのか定かではないが、こっちが拍子抜けしてしまうほどの快諾だったので、気をよくした僕は意気揚々と母に話しかけた。

「どうしてそんなたいへんなことをするの!？」激しい剣幕で責め立てる母に、僕は言葉を失った。このまま引き下がってしまえば何も始まらない。部屋に戻ってワープロに向かい、何故一人暮らしをしたいのかということについてひたすら書き連ねた。レポート用紙3枚分ほど書き上げたそれを手にとって、再び母の元に行く。僕の思いを正直に伝え、一晩かけて何とか母を説得した。

4月が始まる前に住む場所を決めたかったので、3月にアパートを母と探した。食事は外食が主になるので、できれば駅の近くがいい。広い部屋は必要がないので、ユニットバスがあるワンルームならどこでもいい。とにかく一番の問題は、障害者がアパートに住むことを認めてくれるところがあるかどうかだ。

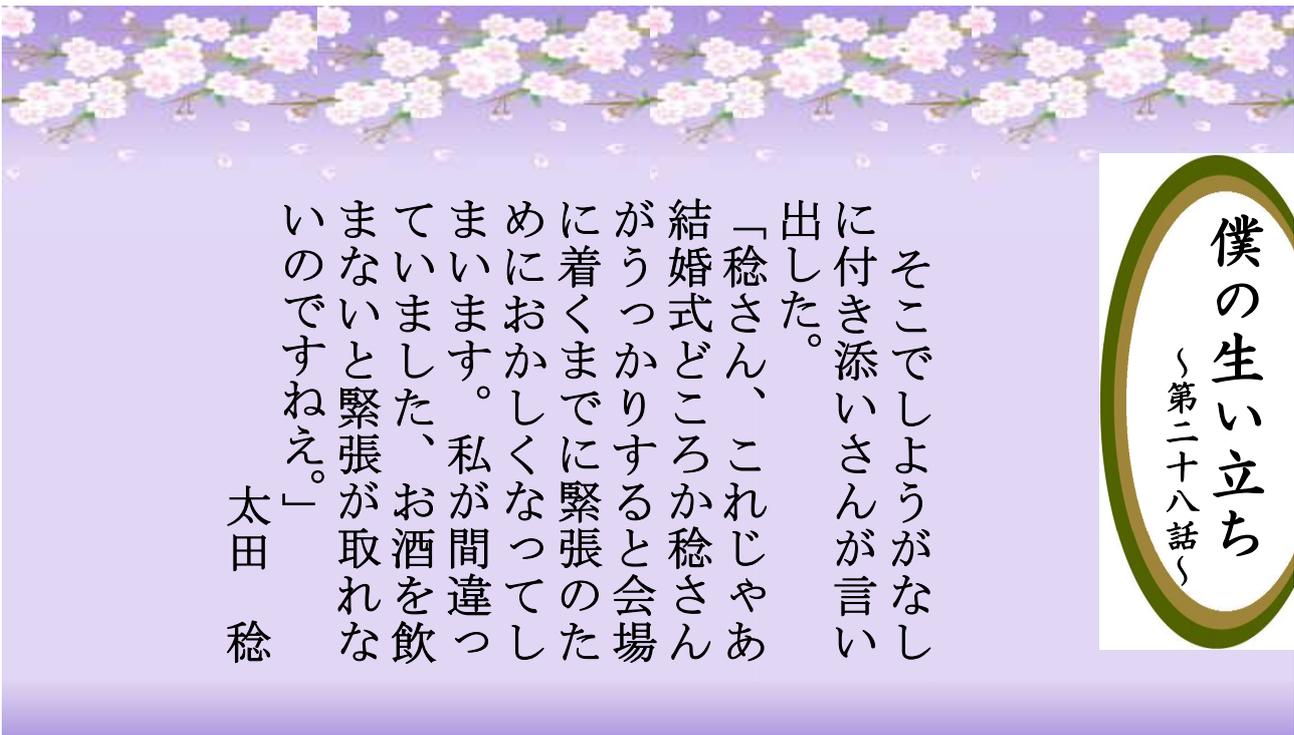
不動産屋を母と何軒か回り、なんとか僕が住めるようなアパートにたどり着いた。そこは、駅から歩いて10分くらいの場所で、川沿いにあり、小田急線に隣接していたワンルームのアパートだった。朝から晩まで小田急線が走り抜け、絶え間なく騒音が続いた。特急やロマンスカーが通ると窓がびりびりと音を立てて揺れた。テレビの画面には常にノイズが走っていた。新しい生活空間として最適かといわれれば答えに難しい部屋だったが、ゴミ溜めのような寮と比べれば十分にまともな環境に思えた。何より一人暮らしをするのだという興奮の方が先立って、多少の厄介さなどまるで気にならなかったのだ。

とりあえず暮らせるための生活用具を母と買い揃えて部屋に設置する。ベッドとこたつとテレビ、そして冷蔵庫と電子レンジを買えば、とりあえずなんとかやっていけそう。6畳間にそれらを配置し、更に小さな本棚とミニコンボとCDラックを置けば、部屋はもう歩き場所はほとんどない。室内では這い歩きで移動する僕にとってはちょうど良い広さだ。

部屋の整理がほぼ終わり（といってもほとんど母がしてくれたのだが）今日から生活ができるようになった4月始めのその日、寮の後輩達が突然部屋を訪れた。「バイト明けにちょっと寄ってみようってなったんで」「へえー、なかなかいい部屋じゃないですか」「これならマージャンもできそうですね」「飲み会も!」各々好き勝手に騒いでいる後輩達が、まるで僕の新しい始まりの日を祝ってくれているかのような気がして嬉しかった。

寮を完全に出たわけではないので、寮の部屋も一応は確保してある。けれども基本的な生活はこのアパートですていくことになる。卒業に向けて励むこと、その先のプランニング、そのための準備のための一人暮らし、そんなことを抱えながら、6年目が始まる。

～ 第62話へつづく ～



僕の生い立ち  
〜第二十八話〜

そこでしようがなしに付き添いさんが言い出した。  
「稔さん、これじゃあ結婚式どころか稔さんがうっかりすると会場に着くまでに緊張のためにおかしくなっちゃいます。私が間違っ  
ていました。お酒を飲まない緊張が取れないのですねえ。」  
太田 稔



### 寄付のお礼

賛助会にご賛同くださった方

田島めぐみ様

ご協力ありがとうございました

※2/1～2/28にご入金くださった方



## スケジュール.....✿.....✿.....

- 3月29日 クラブ活動
- 4月16日 運営委員会
- 4月30日 外に出よう 障がい者参加者締め切り
- 5月10日 外に出よう 一般参加者締め切り
- 5月17日 外に出よう 全体集会
- 5月25日 外に出よう 本番



.....✿.....✿.....✿.....✿.....

## 特定非営利活動法人 「風の子会」 賛助会一時休止のお知らせ

日頃、風の子会の活動にご理解、ご支援を頂きありがとうございます。おかげさまで風の子会は「一人ぼっちの障害者をなくそう」のスローガンのもと、活発な活動を続けることができおります。皆様には心より感謝申し上げます。

当会では現在認定NPOの申請をおこなっています。これを取得できれば、賛助会費や寄付を下さった方には税金が控除されるようになります。ただし、認定NPOの認可が下りるまであと3、4ヶ月かかる見通しです。従いまして、今年度の賛助会費の募集をそれまでの間休止したいと思います。なお、寄付も同様に認定NPO取得後にお受けしたいと思います。

認定NPOの認可が下りましたら、皆様には改めてご報告させていただきますので、誠に申し訳ありませんが今しばらくお待ち下さいますよう、よろしくお願い致します。

平成26年4月 特定非営利活動法人 風の子会  
会長 花田 政國



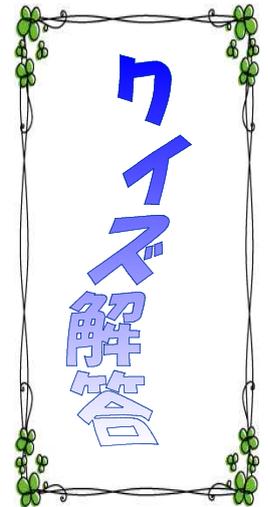
2月は週末に大雪が降ったために欠席者が多くて  
 夕会が開けなかつたりして、結局一度もありません  
 でした。

小野塚 航



×	○	×	○	×	○
○	×	×	○	×	○
×	○	○	×	○	×
×	○	○	×	×	○
○	×	×	○	○	×
○	×	○	×	○	×

○	○	×	×	○	×	×	○
×	×	○	×	○	○	×	○
○	○	×	○	×	×	○	×
○	×	○	×	○	×	○	×
×	○	×	○	×	○	×	○
○	○	×	○	×	○	×	×
×	×	○	×	○	×	○	○
×	×	○	○	×	○	○	×





## アンケートのお願い

会報の充実化を図る為に、読者からアンケートを頂戴する事にしました。どのような些細な事（会報への改善点・希望点や要・不要な記事、希望するエニグマの問題種類等）でも構いませんので、何か御座いましたら下記にご記入の上、風の子にお送り下さい。持参でも郵送でもFAXでも構いません。

匿名でも構いません。

申し訳ございませんが、郵送代はご負担下さります様お願いいたします。

今後書いて欲しい事（例：虫めがねで書いて欲しいテーマ・発信して欲しい情報等）

改良した方がよい点（例：内容や見やすさ・写真を増やして欲しい等）

会報の魅力（例：この記事が好き・写真が面白い等）

その他・ご意見・ご感想

### 連絡先

特定非営利活動法人風の子会

〒108-0075

東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜302

TEL 03(3474)9674

FAX 03(3474)9213

